

編集後記

昭和54年度から実施してきた大学入学者選抜共通第1次学力試験も、既に7回を終了しました。

教育改革の重要課題の一つである共通1次試験を中心とした大学入試制度の改革について、臨時教育審議会は、6月に第1次答申を予定しています。

また、国立大学協会においては、共通1次試験の改善策並びに受験機会の複数化等大学入試制度の改革案がまとめられています。

本号では、大学入試改善に御尽力されている国立大学協会入試改善特別委員会委員の小林啓美東京工業大学教授に「大学入学者選抜方法改善の歩み」について、御執筆いただき、巻頭に掲載することができました。

事例紹介では、第2次試験における入学者選抜方法について、信州大学（経済学部）、大阪大学（経済学部）、佐賀医科大学（医学部）、上智大学にそれぞれの事例を紹介していただきました。

研究ノートでは、前号に引き続き、「解答分析(日本史)、(物理Ⅰ)、(地学Ⅰ)」及び「共通1次・2次、調査書の得点の相関について」を御紹介しました。

本号の刊行に当たり、御多忙の中を寄稿いただきました、舟岡、畠中、吉永、坂本、鳥海、近角、杉浦、鈴木の諸先生に厚くお礼申し上げます。